

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年5月12日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第455号」



2019年標題聖句

第Ⅱ ペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年5月12日 第二主日礼拝  
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時  
司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん  
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌363 「わが身の望みは」 p. 582

【交読文】 No.34 詩篇第108篇 p. 907

【賛美Ⅱ】 新聖歌148 「夕べ雲焼くる」 p. 206

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.1 「ビジョン」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書21章1節～14節(新約p. 205)

【祈 禱】

【説 教】 《三度目の現われ》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166 「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書21章1節～14節】(新約p.205下段)

21:1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。

21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子たち、他にふたりの弟子が一緒にいた。

21:3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちも一緒に行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

21:4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。

21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありません

ね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」

21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。

21:7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまわって、湖に飛び込んだ。

21:8 しかし、他の弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。

21:9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。

21:10 イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」

21:11 シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。

21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。

21:13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

21:14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現わされたのは、すでにこれで三度目である。

### ●ポイント1. イエス様の最初の命令とは？

※マタイの福音書26章30節～32節「オリーブ山への道」(新約p.51上段)

※マタイの福音書28章8節～10節「主の弟子への伝言」(新約p.57上段)

### ●ポイント2. 以前と同じ経験の再現とは？

※ルカの福音書5章1節～11節「4人の漁師の召命」 (新約p.106下段)

## ◎先週のメッセージの概要【子どものように】

《さて今日は、「こどもの日」です。マルコの福音書に書かれたこの記事は、マタイ、ルカにも掲載されています。よって非常に大切な真理を教えています。マルコとマタイは、ほぼ同じ内容ですが、ルカは少し表現が異なっています。『人々がその幼子たちを、主のみもとに連れて来た。所が、弟子たちがそれを見てしかった。しかしイエスは、幼子たちを呼び寄せて、こう言われた。』

何とルカの福音書では「子どもたち」ではなく「幼子たち」となっているのです。それでは、子どもたちと幼子たちとは、どのように違うのでしょうか。

イエス様がお生まれになった時、御使いは羊飼いに「ひとりのみどり子」と伝えました。しかし続けてルカは、『8日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。さて、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。』

ここでは「みどり子」ではなく「幼子」となっています。そしてその後、夢でヨセフはマリヤと幼子イエス様を連れてエジプトに向かいます。ヘロデ大王は紀元前4年に死にましたから、ベツレヘムの2歳以下の幼子を皆殺しにした時には、エジプトに行ってから、二年が経過したことが分かります。

その時また、ヨセフに、御使いによって、夢のお告げがあるのです。「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつけねらっていた人たちは死にました。」ここでも「幼子」です。この後ヨセフは、家族を連れてナザレに戻ります。ここから「子どもたち」とは「幼子」のことであって、実際には0歳から2歳までの子どもを指すことになります。

イエス様は言われます。「子どもたちを、私のところに來させなさい。神の国は、このような者たちのものです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」と。

幼子は、全面的に両親を信頼しています。そしていつも笑顔です。喜んでいます。そのように、私たちもこのお方を信じ信頼し、従って行くのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は5月19日(日)となります。また次回「聖書の学びと祈り会」は5月15日(水)午後6時15分からです。